

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	高規格ICアクセス 一般国道179号 はわいバイパス	事業区分	一般国道	事業主体	鳥取県	
起終点	自: 鳥取県東伯郡湯梨浜町田後 至: 鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい長瀬			延長	2.5km	
事業概要						
<p>一般国道179号の鳥取県東伯郡湯梨浜町田後～はわい長瀬間は、湯梨浜町市街地を経由し、倉吉市中心部と山陰道および一般国道9号を結ぶ幹線道路であり、鳥取県中部生活圈域へのアクセスを担う重要な道路である。</p> <p>はわいバイパスの整備により、幅員狭小、慢性的な交通渋滞の解消を図るとともに、山陰道はわいICへのアクセス強化を図り緊急輸送ルートを確保するために、早期に整備を行う必要がある。</p>						
H31年度事業化		H31年度都市計画決定 (R4年度変更)		R3年度用地着手		
				R6年度工事着手		
全体事業費		約51億円		事業進捗率		
				約46%		
				供用済延長		
				— km		
計画交通量		9,400～13,800台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用: (残事業)/(事業全体) 20/49億円		総便益: (残事業)/(事業全体) 72/72億円	基準年
	1.5		(事業費: 17/47億円 維持管理費: 2.2/2.2億円 更新費: -/-1億円)		(走行時間短縮便益: 68/68億円 走行経費減少便益: 2.7/2.7億円 交通事故減少便益: 1.9/1.9億円)	令和7年
	2.2 [2%]	6.4%				
	2.7 [1%]		(事業全体)		(残事業)	
	3.7					
5.0 [2%]	20.6%	交通量	B/C=1.3～1.6(±10%)	交通量	B/C=3.3～4.1(±10%)	
5.9 [1%]		事業費	B/C=1.4～1.5(±10%)	事業費	B/C=3.4～4.0(±10%)	
		事業期間	B/C=1.4～1.5(±20%)	事業期間	B/C=3.5～3.8(±20%)	
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道の通過交通をはわいバイパスが担うことで、現道の交通混雑の緩和を図るとともに、幅員狭小区間及び歩道狭小区間を回避することにより、安全かつ円滑な自動車交通及び歩行者の安全な通行を確保する。</li> <li>・完成後「第1次緊急輸送道路」に編入され、鳥取県の緊急輸送道路ネットワークの拡充に寄与する。</li> <li>・鳥取県中部圏域の中心地である倉吉市と山陰自動車道との交通がより円滑なものとなることで、観光、地域経済、産業等の一体的な発展を支援する。</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見						
はわいバイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、倉吉市をはじめとする関係1市4町の首長等で構成される中部地区行政振興協議会より早期整備の要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見						
事業の継続は妥当である。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等  
 山陰道「北条道路」の一部区間(はわいIC～北条IC(仮称))が令和8年度開通予定(令和元年12月に開通時期公表)。

事業の進捗状況、残事業の内容等  
 用地進捗率約98%、事業進捗率約46%

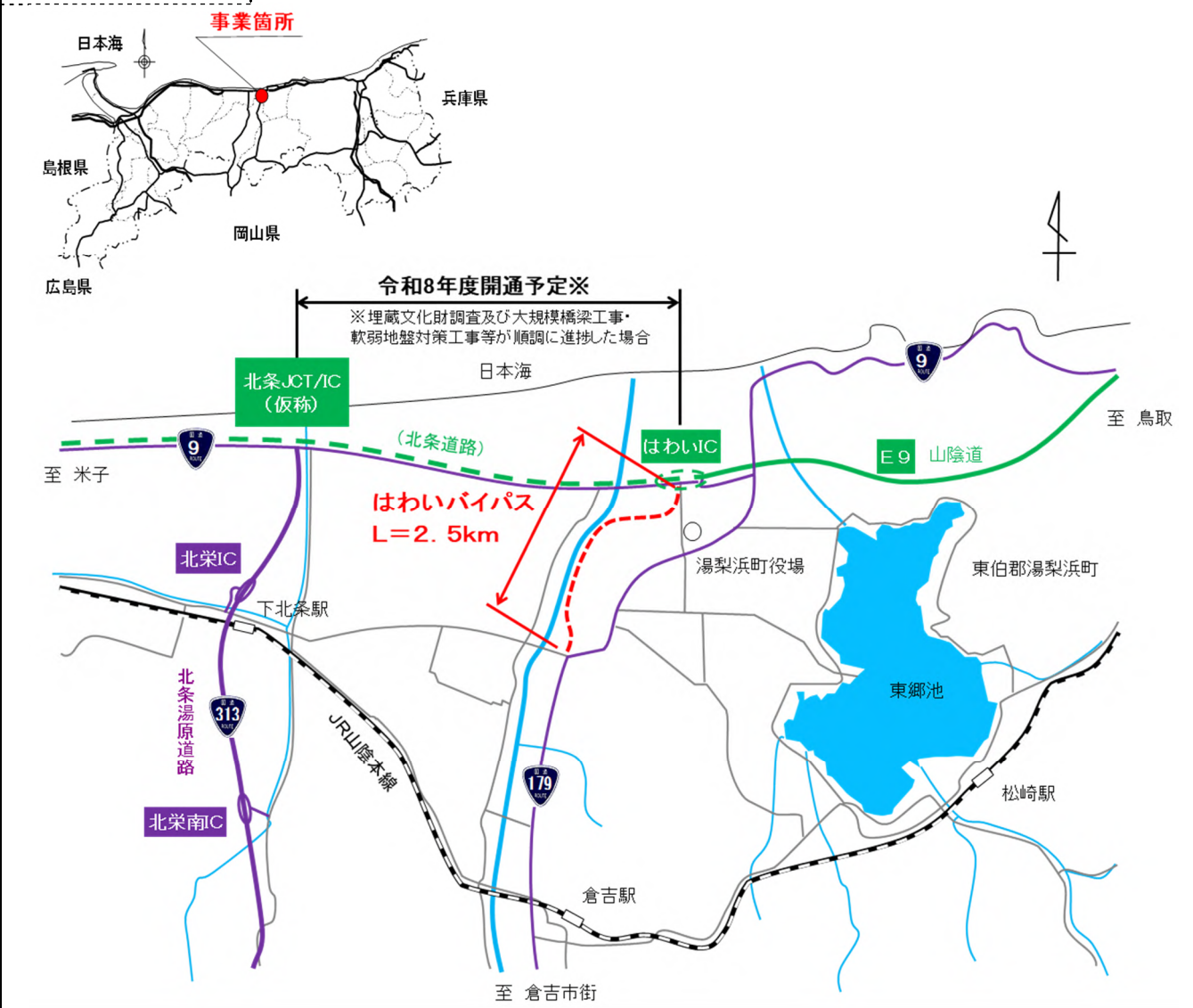
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等  
 引き続き早期供用に向けて事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等  
 建設発生土の有効利用等によりコスト削減を図っている。

対応方針 継続

対応方針決定の理由  
 当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。  
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)